

公益財団法人痛風財団  
平成29年度事業報告書

## I. 概況

現在わが国の痛風・高尿酸血症患者数は約100万人、高尿酸血症患者は約1,000万人に至っていると推定されているが、この増加傾向は生活環境の変化等も加わり未だに続いていると思われる。

当財団は痛風・高尿酸血症の原因究明と治療レベルの向上の為、長年に亘り研究者への助成支援を続け、また医師に対する研修や一般の人々に対する痛風・高尿酸血症に関する啓発事業を通じて患者の減少を目指した活動を行っており、平成29年度もこの目的に向けて事業活動を行った。

また、近年痛風の要因でもある尿酸自体の研究に関する論文も多く発表され、尿酸が痛風のみならず多くの疾患に関係していることが明らかになりつつあり、当財団の支援事業も広く尿酸分野の研究者を対象とするなど新たな展開が求められて居る。

事業を支える財政面では収入は2,050万円と前年度比200万円減となったがこれは製薬業界からの寄付金減少が主要因で、今後も寄付金の増加は期待出来ず、資産運用益と賛助会費の確保が更に重要となる。一方支出はほぼ前年と同水準の2,090万円で、差し引き今年度は約37万円のマイナスとなった。

## II. 事業の概要

### 1. 研究助成事業

平成29年度の研究助成は下記部門を対象として総額700万円の助成を行った。

- ① 痛風・高尿酸血症に関する臨床的色彩又は基礎的色彩の濃い特色ある研究を対象とした「痛風財団賞」
- ② 痛風・高尿酸血症に関する一般的研究を対象とした「研究助成」

助成申請は「痛風財団賞」「研究助成」の2部門で募集を行い、全国医学系大学82校や関係研究機関などに対して応募要項送付し、また財団ホームページや医学関係新聞雑誌でも公表して平成29年9月1日から10月28日まで応募を受け付けた。

この結果平成29年度の応募総数は43件であった。

選考は理事長以下理事長より専門分野を考慮して委嘱された下記9名の選考委員が応募書類を事前に審査し、その結果を参考として平成29年12月11日開催の選考委員会で審議された。

鎌谷 直之 痛風財団理事長・スタージェン医療人工知能研究所  
所長

板倉 光夫	徳島大学名誉教授・東都春日部病院院長
上田 孝典	福井大学理事・副学長
谷口 敦夫	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター教授
寺井 千尋	自治医科大学さいたま医療センターリウマチ膠原病科教授
藤森 新	帝京大学医学部附属新宿クリニック院長
細谷 龍男	東京慈恵会医科大学慢性腎臓病病態治療学教授
森崎 隆幸	東京工科大学 医療保健学部臨床工学科 教授
山本 徹也	兵庫医科大学名誉教授

審議の結果、平成29年度研究助成対象者は以下の通り決定した。

- ① 痛風財団賞 1名 助成金額100万円  
 高田 龍平（東京大学医学部附属病院薬剤部講師/第一副部長）  
 研究テーマ：尿酸排出輸送体 ABCG2 による尿酸動態制御機構の解明
- ② 研究助成 14名 助成総額600万円
1. 安西 尚彦（千葉大学大学院医学研究院薬理学 教授）  
 研究テーマ：Multi-Functional Organic Solute Transporter (MFOST) としての MCT9 (SLC16A9) の尿酸輸送機能解明
  2. 市田 公美（東京薬科大学薬学部病態生理学教室教授）  
 研究テーマ：慢性腎臓病の進行への尿酸及び関連遺伝子の影響
  3. 山内 高弘（福井大学医学部病態制御医学講座内科学（1）教授）  
 研究テーマ：新規葉酸代謝拮抗薬 pralatrexate による耐性白血病/リンパ腫の克服
  4. 細山田 真（帝京大学薬学部人体機能形態学研究室教授）  
 研究テーマ：キサントシンオキシドレダクターゼノックアウトマウスの腎不全死起因物質の検索
  5. 久留 一郎（鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻遺伝子再生医療学講座（再生医療学部門）教授）  
 研究テーマ：細胞内尿酸によるインフラマゾームを介する心筋イオンチャネル蛋白質翻訳後修飾の分子機構に関する研究
  6. 富岡 直子（帝京大学薬学部人体機能形態学研究室講師）  
 研究テーマ：アルツハイマー病モデルマウスの認知機能障害に対する高尿酸血症の影響
  7. 沢村 達也（信州大学医学部生理学教室教授）  
 研究テーマ：痛風の炎症発現・増悪メカニズムの解明
  8. 今田 恒夫（山形大学大学院公衆衛生学・衛生学講座 教授）  
 研究テーマ：日本人地域住民コホートにおける尿酸関連遺伝子多型・環境相互作用と心血管疾患、認知症の関連
  9. 藏城 雅文（大阪市立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学講師）

研究テーマ：キサンチン酸化還元酵素活性の生活習慣病、動脈硬化における意義の解明

- 1 0. 藤村 有希 (大阪医科大学内科学講座内科学Ⅲ教室助教 (准))  
研究テーマ：心房細動患者における血漿キサンチン酸化還元酵素活性の意義についての横断的および縦断的な検討
- 1 1. 足達 寿 (久留米大学医学部地域医療連携講座教授)  
研究テーマ：一般住民における、血清尿酸値と心不全発症の縦断的疫学研究
- 1 2. 仲川 孝彦 (奈良県立医科大学未来基礎医学教室研究教授)  
研究テーマ：中枢神経における尿酸の役割
- 1 3. 草野 輝男 (日本医科大学医学部生化学・分子生物学講座助教)  
研究テーマ：XOR 阻害剤がプリンサルベージ経路に与える影響—低酸素処置マウス脳のプリン誘導体メタボローム解析による検討
- 1 4. 川口 真 (防衛医科大学校医学研究科生 (泌尿器科学専攻))  
研究テーマ：痛風の GWAS データを活用した臨床遺伝子学的解析

## 2. 研修会開催・痛風協力医療機関推薦事業

### ① 第28回医師対象痛風研修会

全国の医師・薬剤師・栄養士など医療関係者を対象に、今年度で28回目を迎えた痛風研修会を平成29年9月10日(日)に東京慈恵会医科大学講堂で開催した。  
痛風協力医療機関などへの案内状やインターネット等を通じて聴講者を募り、一般開業医をはじめ医療関係者約200名の参加を得て高尿酸血症の診断及び治療の方法や最新の研究成果についての講義と活発な質疑応答が行われた。研修プログラムと講師は下記の通り。

#### ★第1部 講演

1. 高尿酸血症・痛風治療ガイドライン改定に向けて  
久留 一郎 (鳥取大学大学院教授)
2. 腎性低尿酸血症診療ガイドライン  
市田 公美 (東京薬科大学教授)

#### ★ランチョンセミナー

痛風・高尿酸血症の患者指導～アドヒアランス向上と食事指導～  
金子 希代子 (帝京大学薬学部教授)

★第2部 講演

1. 健常者の尿酸代謝  
津谷 寛(国立病院機構あわら病院院長)
2. 痛風の治療に対する EULAR の 2016updated recommendations  
藤森 新 (帝京大学医学部附属新宿クリニック院長)
3. 合併症などのある患者での痛風発作及び高尿酸血症に対する薬剤の使い方  
藏城 雅文 (大阪市立大学大学院医学研究科講師)

★第3部 質疑応答

回答者

- 谷口 敦夫 (東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター教授)  
箱田 雅之 (安田女子大学家政学部管理栄養学科教授)  
森脇 優司 (兵庫医科大学糖尿病内分泌代謝科教授)

尚、平成30年度第29回痛風研修会は9月9日(日)に東京慈恵会医科大学で開催の予定である。

② 痛風協力医療機関推薦

痛風研修会参加の一般医師などに呼びかけ、新たに1機関を推薦した。

この結果、平成30年3月末現在の痛風協力医療機関は全国で合計140機関となった。

新規推薦医療機関は下記の通り。

(A) 新規推薦

1. 澤田肝臓・消化器内科クリニック (澤田 幸男 先生)  
兵庫県宝塚市山本東2-7-12  
MS山本東ビル201  
TEL 0797-88-6001

3. 啓発事業

① インターネットによる啓発

ホームページへのアクセス数は新たにスマートフォン向けウェブサイトを開設した結果年間200万件を超えるに至り、患者や家族のみならず広く一般関係者に対しても有効な情報伝達手段として定着したと思われる。この為、その内容も更に充実すべく適宜更新しながら痛風・高尿酸血症についての知識や診療機関の情報

を掲載して一般各位の便宜に供して居る。

② 一般からの質問への対応

一般患者や家族などからのメールや電話での質問も連日寄せられた。内容は矢張り診療機関の紹介依頼が最も多く、その他は発作時の対処方法や食事に関する事などで、これ等の質問に対しては都度財団関係の専門医師等に問い合わせその回答内容を伝えている。

③ 小冊子及び会報による啓発

小冊子「尿酸値をコントロールする」を発行し、全国の協力医療機関等を通じて一般に配布すると共に、平成29年8月と平成30年1月に会報を発行した。

8月発行の会報第85号は平成28年度研究助成鳥居痛風学術賞受賞の防衛医科大学校分子生体制御学講座医学研究科の崎山真幸先生の「ゲノムワイド関連解析と **fine mapping** を用いた痛風の感受性遺伝子 **ALDH2** の同定」と、同じく田辺三菱賞受賞の千葉大学大学院医学研究院・薬理学教授の安西尚彦先生の「田辺三菱賞を受賞して」と題する研究の背景やその後の進展状況などに関する一文を掲載し、1月の会報第86号には財団役員各位からの寄稿文を掲載した。

Ⅲ、会員の現況（平成30年3月31日現在）

個人賛助会員	110人
団体賛助会員	12団体
特別賛助会員	10団体。

以上